

# 令和5年産 早生水稲(コシヒカリ) 栽培しおり

病害虫の発生状況については最新の香川県病害虫防除所のホームページをご覧ください。→

発行:JA香川県大川地区営農センター  
監修:東讃農業改良普及センター

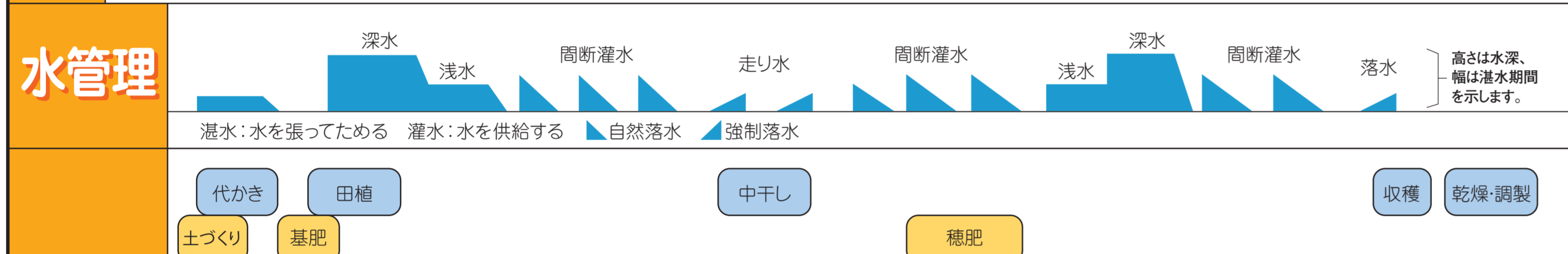
土づくりのため、堆きゅう肥等の積極的な施用に努めましょう。また、稲わらや麦わらは焼かずすき込みましょう。

栽培履歴を必ず記載し、出荷開始15日前までに提出しましょう。毎年種子更新100%に取組みましょう。

## 作業の目安

作業品種	田植日	間断灌水開始(田植後15日)	中干し期間	穂肥施用(出穂16日前)	出穂期(ほ場全体の4~5割が出穂)	収穫期
コシヒカリ	4月15日	4月30日	5月20日 ~ 6月16日	6月27日	7月13日	8月13日~8月16日
	4月25日	5月10日	5月30日 ~ 6月21日	6月29日	7月15日	8月14日~8月18日
	5月1日	5月16日	6月5日 ~ 6月24日	7月2日	7月18日	8月17日~8月21日
	5月10日	5月25日	6月14日 ~ 6月28日	7月6日	7月22日	8月21日~8月25日
	6月1日	6月16日	7月1日 ~ 7月10日	7月17日	8月2日	9月2日~9月6日

※中干しは、田面にできるヒビ割れが1cm程度までとします。強い中干しは、根を痛める原因となります。



## 栽培管理

代かき

田植

土づくり

基肥

病害虫防除(箱剤)

雑草防除

中干し

雑草防除

穂肥

病害虫防除(必須防除1)

病害虫防除(必須防除2)

雑草防除

収穫

乾燥・調製

◇代かきはできるだけ均一に行い、(施肥基準を参照)。

◇田植は、初期病害虫防除のため、必ず箱剤剤を散布する。

◇除草剤散布後、補植はしない。

◇除草剤散布後、1週間は落水しない。

◇補植は、やや浅植をすす。

◇中期除草剤を散布する。

◇発生している雑草の種類に応じ、(悪)極端な中干し (良)適度な中干し

● 中干しは田面が黒乾かぬ。

● 10日前までに、畦畔などの草刈りは出穂前までに完了。

● カメムシ類の対策として、(病害虫防除基準を参照)類等の防除を行う。

● 出穂前にいもち病、紋枯病、カメムシ類等の防除を行う。

○ 有機質肥料の場合は出穂18日前、(有機質肥料の施用時期は出穂18日前)。

○ 収穫前までにクサネムを抜取る。

○ 初期病害虫防除基準を参照。

○ 出穂後にカメムシ類の防除を行う。

○ 水分80~90%が黄変したら刈り取る。

○ カントリーエレベーターに出荷する。

○ 刈取り後は2時間以内に乾燥に移す。

(悪)極端な中干し

(良)適度な中干し

カメムシ無防除の被害

出穂初め

刈取り適期

## 施肥基準

### 1) 基肥・穂肥の施肥基準 (kg/10a)

肥料名	窒素-リン酸-加里 N-P-K(%)	総量	基肥	穂肥(出穂16日前)	備考
コシヒカリ発	16-14-14	30	30	-	フンシヨット肥料側条施肥対応
Jコート早生1号	14-14-14	35	35	-	フンシヨット肥料側条施肥対応
コシツータッチ	10-10-10	60(50)	35(30)	25(20)	フンシヨット肥料

注( )は、短期栽培の場合・粘土質土壌の場合 側条施肥対応肥料で手ふりする場合は、基肥を1割増やす

### 2) 土壌改良資材等(いずれか) (kg/10a)

肥料名	総量	基肥	出穂35日前頃
粒状くろがねシリカ	100	100	-
けい酸加里	40	40	-
苦土一番	40	40	-

### 野菜跡の基肥施肥基準(コシツータッチ) (kg/10a)

前作物名	基準量
ナバナ、ブロッコリー、キャベツ、青ネギの春どり	0
ブロッコリー、キャベツ、青ネギなどの年内どり、レタス、ニンニク、タマネギ	10~15

### 3) 堆肥を施用する場合 (kg/10a)

肥料名	窒素-リン酸-加里 N-P-K(%)	総量	基肥	穂肥(出穂16日前)
牛ふん堆肥	-	1000	1000	-
コーン堆肥	-	4000	4000	-
コシツータッチ	10-10-10	40	25	15

### 〈留意事項〉

- 堆肥を施用し土づくりに努める。
- コーン堆肥を使用する場合は、作付けの前年秋を目安に施用し、遅くとも12月までに施用する。
- 堆肥やコーン堆肥を連年使用すると地力が向上するので肥料の施肥量を減らす。
- 短期栽培の場合は、施肥量を1割程度減らす。
- 中山間地帯及び地力の高いほ場では減肥する。
- フンシヨット肥料を使用しているほ場で高温により肥切れした場合は、出穂直前にBB488を用いて10kg/10a程度施用する。
- 被覆肥料のマイクロプラスチックの流出には十分に気をつけること。



## 病害虫防除基準

(必須防除)

防除時期	対象病害虫名	使用薬剤及び10a当たり散布量	注意事項
移植まで(緑化期~移植当日)	いもち病、紋枯病、コブノメイガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	ヒルターフェルテラフェスGT粒剤 1箱当たり50g散布	● 薬剤が葉に付着して葉害が生ずる場合があるので、散布直前の灌水はさけること。
必須防除1 いずれか 出穂20~15日前(収穫45日前まで/1回) 出穂直前(収穫14日前まで/2回以内)	穂いもち、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類	ゴウケツモンスター粒剤 3kg ノンプラスパルダタムツフロアブル 1,000倍(100ml/100L)	● 灌水状態(水深5cm程度)で散布する。 ● 散布後少なくとも4~5日間は灌水状態を保ち、散布後7日間は落水及びびかけ流しをしないこと。 ● 使用前によく振ってから使用する。 ● 使用量にあわせ薬液を調整し、使いきること。
必須防除2 いずれか 出穂7~10日後(収穫7日前まで/3回以内) 出穂10~14日後(収穫7日前まで/3回以内)	カメムシ類、ウンカ類	スタークル豆つぶ 250g スタークル粒剤 3kg スタークル顆粒水溶液 2,000倍(50g/100L)	● 灌水状態(3~5cm程度)で散布し、4~5日間は灌水状態を保ち、散布後7日間は落水やびかけ流しをしない。 ● 灌水状態(3cm程度)で田面に均一に散布し、4~5日間は灌水状態を保つ。 ● 使用量にあわせ薬液を調整し、使いきること。

## 雑草防除基準

対象病害虫名	防除時期	使用薬剤及び10a当たり散布量(使用可能時期/回数)
スクミリンゴガイ	田植直後	スクミノン(粒剤) 1~4kg(収穫60日前まで/2回以内)
いもち病、もみ枯細菌病	発生初期	ブラシンフロアブル 1,000倍(収穫7日前まで/2回以内) ※ノンプラスパルダタムツフロアブルを使用する場合は1回まで。
稲こうし病	出穂10~20日前	※ノンプラスパルダタムツフロアブルを使用する場合は1回まで。
紋枯病	発生初期	パルダシン液剤5 1,000倍(収穫14日前まで/5回以内)
ウンカ類、コブノメイガ、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ	発生初期	パダントレボン粒剤L 3kg(収穫30日前まで/3回以内)

散布時期	除草剤名 10a当たり処理量	注意事項	
初期除草剤(いずれか) 田植直後~9日 ノビエ2.5葉期まで (田植後30日まで/1回)	カチボンシジャンボ 小包装(パック) 10個(300g)	● 水深5~6cmで散布する。 ● 散布後3~4日間は水深3~5cmを保つ。 ● ウキクサや藻類の発生が多い場合には、モグテン等で処理した後に使用する。	
	カチボンシフロアブル 500ml	● 灌水状態で散布し、3~4日間は水深3~5cmを保つ。 ● 藻類や浮草が多発生や、散布時に田面が露出している場合は、拡散が劣り、除草効果の低下や葉害が発生するため注意する。	
	ナギナタ豆つぶ 250g	● 散布直前から3日間は水深5~6cmを保つ。 ● ウキクサや藻類の発生が多い場合には、モグテン等で処理した後に使用する。	
田植後~ノビエ3葉期まで (収穫60日前まで/1回)	エンペラー1キロ粒剤 1kg	● 灌水状態で散布し、散布直前から3~4日間は水深3~5cmを保つ。	
中期除草剤 田植後20~30日 (収穫60日前まで/1回)	パサグラン粒剤 4kg	● 初期除草剤散布後、広葉雑草が残った場合に使用する。 ● 散布直前から3~5日間は落水状態を保つ。 ● イネ科雑草には効果がない。	
	田植後25日~ノビエ4.0葉期まで (収穫40日前まで/2回以内)	クリンチャージャンボ 小包装(パック) 30個(1.5kg)	● 初期除草剤散布後、ヒエが残った場合に使用する。 ● 散布後3~4日間は水深3~5cmの灌水状態を保つ。
	田植後20日~ノビエ4.0葉期まで (収穫50日前まで/2回以内)	クリンチャーバスメ液剤 1,000ml、水70~100L	● 初期除草剤散布後、ヒエ、広葉雑草が残った場合に使用する。 ● 散布直前から3~5日間は落水状態を保つ。 ● 雑草の茎葉や株元によく付着するよう散布する。 ● 履着剤は使用しない。
	田植後20日~ノビエ5.0葉期まで (収穫60日前まで/1回)	ワイドパワー粒剤 3kg	● 初期除草剤散布後、ヒエ、広葉雑草が残った場合に使用する。 ● 極浅水状態の水深1~2cmで散布する。 ● 散布後2日間は落水をしない。散布後3~7日間は適宜入水を行い、水深2~5cmを保ち、落水はしない。
田植後20日~ノビエ4葉期まで (収穫60日前まで/1回)	ツイゲキ1キロ粒剤 1kg	● 水稲5葉期以降に散布する。 ● 灌水状態で散布。3~4日間は水深3~5cmを保ち、落水をしない。 ● 散布後多量の降雨が予測される場合は、効果が劣るため使用を避ける。	

周辺環境のため農薬を散布した場合は1週間は落水しないようにする。